

元気のはじまり土なべごはん

今治市立立花小学校 3年 村上 立騎

「うん、さい高！」

ぼくが、はじめて土なべでたいたごはんを一口食べた時思わず出た言葉だった。どうして土なべでたいたかというと、ある朝、お母さんがすいはんきのタイマーをわすれていて、いそいでたぐために土なべでたいたからだ。

その時のことは、今でもはっきりおぼえている。わが家のコンロは、自動で火を調せつするので、お母さんはほったらかしで朝ごはんの支度をしていたが、ぼくはちゃんとたけるのか不安で、なべと火をじっと見ていた。シュツシュツと湯気が出て、土なべがカタカタ鳴り始めた。

「わあ、ふきこぼれる。」

と言ったらすぐコンロの火が強火から弱火にかわった。なべはしずかになった。

「ねえ、火が弱くなったよ。大丈夫？」
と聞くと、お母さんはフツとわらって

「じゃあ出来上がりまで見ていていいよ。」
と言ったので、ぼくはさい後まで見ることに
した。火が弱くなって七、八分。火はピーっ
という音が鳴って止まった。それから十分む
らすというので、ぼくはそんなに待つのかと
がっかりしたが、先に朝の支度をすませた。
十分後、食たくに土なべをおいていよいよ
ふたを開けた。ふわーっと湯気が出てあまい
おいに、ぼくはゴクツとよだれをのんだ。
一面が真っ白でお米はキラキラかがやいてい
た。一口食べるとお米のあまみを感じられ、
もっちりしてすぐ二口、三口とあっという間
に完食。いつもと同じお米なのに、こんなに
ちがうのかと家族みんなで感動した。

この日から、わが家は毎朝土なべごはんだ。
ぼくは、このおいしいごはんのおかげで、白
米をたくさん食べれるようになった。今朝も
土なべごはんではパワーまんたん元気いっぱい
な一日が始まるのだ。